

乳がん治療の新しい一歩

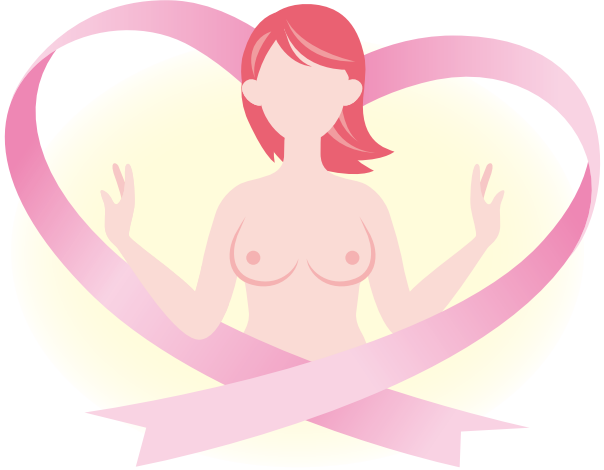


三重大学医学部附属病院乳腺センター センター長・教授
河口 浩介 KAWAGUCHI Kosuke
【URL】 <https://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/3812.html>

美しさも守る「オンコプラスティックサージャリー」

乳がんの手術では「がんを確実に取り除くこと」が最も大切です。しかし同時に、治療後の生活の質、特に乳房の見た目やバランスも、患者さんにとって大きな関心事です。がんを治しても、自分の体に大きな変化があると、社会生活や心理面に影響を及ぼすことがあります。

そこで、前センター長の小川朋子先生が推進してきたのが「オンコプラスティックサージャリー」です。これは、がんの根治を第一にしつつ、乳房の形や整容性にも配慮する手術法で、当センターの大きな強みとなっています。私はこの流れをしっかりと受け継ぎ、さらに改良・発展させることで、多くの患者さんが「治療後も自分らしく生きられる」よう支えていきたいと考えています。



難 治性乳がんに挑む

乳がんの中には、治療が難しく再発しやすいタイプがあります。こうした「難治性乳がん」に立ち向かうには、外科手術だけでなく、抗がん剤やホルモン治療、放射線治療などを組み合わせた「集学的治療」が欠かせません。患者さんの体の状態や生活背景に合わせ、チームで最適な治療法を考えていく必要があります。

私はセンター長として、より効果的で副作用の少ない治療の形を確立し、治りにくい乳がんにも希望を届けたいと考えています。そのためには、日々の診療に加えて研究や臨床試験にも力を入れ、最先端の治療をいち早く患者さんに届ける体制を整え、三重から全国へ、そして世界へとつながる新しい乳がん治療を発信していきます。



本 当に良い治療とは

「本当に良い治療」とは、患者さんごとに違うものだと考えています。医学的な指針はありますが、それに従うだけで十分ではありません。その方の病気の状態だけでなく、価値観や人生のステージを理解してこそ、その人にとっての最善が見えてきます。患者さんから「先生のお母さまだったらどうしますか」と尋ねられることもあります。『今お話した全く同じ治療法を提案します』と答えています。どの患者さんにも、ご家族と同じように誠実に向き合うことを大切にしています。

